

共同研究

～被爆100周年に向けた復興都市計画等の再検証～

キックオフシンポジウム

1945
▼
2045

次世代が描く広島

先人たちは広島に何を描いたのか
まちづくりに込められた思いを受け取り、
私たちは未来に何を描くのか

2026年 6月12日(金)

14:00～17:00 (開場13:45)

旧広島市民球場跡地イベント広場 大屋根ひろば
(広島市中区基町5番地)

定員100名 (事前申込不要)

主催：公益社団法人日本都市計画学会中四国支部
広島市都市整備局

協力：財務省中国財務局、広島県、広島都心会議



1945 ▶ 2045 ～次世代が描く広島～

被爆後の広島では、広島平和記念都市建設法や復興都市計画等のもと、都市像「国際平和文化都市」の実現に向けて復興が進められました。

平和記念公園、中央公園、平和大通り、河岸緑地等に代表される現在の都市構造は、被爆復興期に描かれた都市計画を基本として形成されています。

復興にあたっては、市民、企業、行政など多様な主体が連携しながら進められ、現在の広島のまちにある何気ない「空間」「水辺・緑」「道路」には、先人たちが「平和」への願いを込めながら築き上げてきた理念や思いが、今もなお息づいているのではないのでしょうか。

今回のキックオフシンポジウムでは、ドローンによって、現在の広島のまちなみを俯瞰しつつ、被爆後の復興によって形成されてきた都市構造やそのまちづくりに込められた思いを見つめ直します。

あわせて、次の世代を担う学生等により、未来の広島を描くワークショップを行います。

【プログラム】

開会・挨拶

渡邊 一成

(日本都市計画学会中四国支部長、福山市立大学教授)

趣旨説明

田中 貴宏

(日本都市計画学会中四国支部企画・研究委員会委員長、広島大学教授)

共同研究に参加する学生等によるワークショップ

クロストーク（ドローン映像生中継）

閉会

“被爆100周年に向けた復興都市計画等の再検証に係る共同研究”とは。

公益社団法人日本都市計画学会中国四国支部と広島市は、被爆100周年に向けて、都心のまちづくりの総仕上げの視点に立ち、「被爆100周年に向けた復興都市計画等の再検証に係る共同研究」に取り組みます。

本共同研究では、次世代を担う学生が中心となり、戦後復興の過程や復興期に込められた先人たちの思い、願いに触れながら、広島の都市構造や都市活動に込められた理念や価値を再確認し、平和文化、空間、水と緑、交通、官民協働等の視点から、被爆100周年を見据えた広島の都心のあり方について研究を行います。

また、この研究を支えるため、民間企業や行政機関等の多様な主体が連携し、それぞれの立場から講演や講義等を行うことで、広島の復興やまちづくりに関する知見や思いを共有します。